

IV 就 職 編

1 就職するにあたって

職業紹介は、職業安定所（以降、職安）が行うものですが、新規高等学校卒業者に対する場合は、学校が職安よりその業務を委託され実施するシステムになっています。したがって学校で行う就職指導は職安を通じて行った就職になります。

もし入社後の採用条件が違えば、それらの改善要求を出せるわけですが、一般の広告や求人情報誌により就職した場合は採用条件等が違っていても受け入れるか、または辞めるしかありません。また、広告や求人情報誌等による求人は、中途採用と呼ばれるもので、採用する側は今すぐ仕事のできる人を求めており、多くは新卒者を求めているではありません。企業の新卒者採用は社内教育を通じ、企業人として将来を見極めているわけですから、中途採用と新規卒業者の採用は全く違います。

一般的に、来年度の採用人数は5月から6月にかけて、各企業が過去の実績や将来の規模等を考慮して割り出します。（ちなみに前年度の利益が1000万円位で新卒者1名の採用ができるそうです。）その後、前年度の資料を基に、今年度の求人票を作成し職安に提出します。職安は提出された求人票をチェックし、受理印を押してから企業に戻します。その戻された求人票のコピーが企業より学校に送られてくるのです。この求人票には学校からの推薦人数が書かれています。推薦された生徒の中で、入社試験に合格した人たちが内定者となります。企業も構成上のバランス等により毎年一定の新卒者を確保しなければならないため、求人票も過去の実績を見て送ることになります。生徒がある企業を希望してもその企業の求人票が学校に送られてきていなければ受験は出来ません。

<就職するにあたっての注意事項>

1. 7月の第1回及び第2回就職調整会議に申込みができる生徒は、原則として1・2年の単位がすべて履修され、さらに3年1学期の評価に欠点のない生徒とする。
2. 出願は1社単願とする。但し、10月以降の出願に関しては、条件により2社の併願出願が可能となる。（但し、併願を認めた企業に限る。）
3. 出願にあたっては、保護者の同意を必要とする。このため、保護者連名の「受験願」を提出する。
4. 学校に求人票のきていない企業への出願は、特別な場合を除いて認めない。
5. 企業との連絡は必ず学校（進路指導部）を通して行う。個人的に接触しない。（職安の業務委託のため）
6. 採用内定後の取消しは、いかなる理由を問わずできない。
7. 学校に無断で受験した場合、必要書類は発行できない。

※大事な事項なのでよく読んで理解しておいてください。

3 就職に向けて

(1) 自分の意志の決定

求人票や資料を深く検討し、家族、先生とよく相談して、具体的な希望を固めておきましょう。4月の進路希望調査、6月の三者面談で方向づけ、7月の求人票によって最終決定をします。

(2) 連絡を密に、期限を守る

3年生は進路についての重要な連絡がほぼ毎日あります。担任・進路の先生と連絡をよく取り、情報の受け取りミスのないように進路ファイル等を活用して下さい。また、提出書類の期限を守らないとり返しのつかないことになるので注意してください。

(3) 受験への準備

欠席・遅刻は今からでもしないように心がけてください。学習成績も良いにこしたことはありません。また、面接や見学に対しては、普段から言葉遣いや身だしなみに注意していなければ、急な練習ではきちんとできません。学科試験や作文・面接の準備を計画的にしっかり行い、生活のリズムを整え、体調を崩さないように心がけましょう。

4 企業選択についての注意

(1) 自己理解を深める

「どのような職業を選ぶか」の結論を出すためには、まず自分がその職業に、職種に、そしてその職場に適した人間であるかどうかを見極めることが大切です。この、適性を見極めることの大切さを十分に認識した上で、職業の選択を決定しなければなりません。

① 自分の適性

自分の長所・短所などの性格をよく見極めてください。学業成績や得意、不得意科目、趣味、特技、健康状態などを総合的に判断して自分の適性を発見しましょう。

② 環境から見た適性

家族の職業や、家庭内での自分の立場、通勤時間、利用する交通機関を考慮に入れた自宅の立地条件など、就職決定の要因となるものについて十分考えてください。特に通勤時間がかかり過ぎる場合や、最終バスの時間があまりに早い場所は、やがて通勤に困難をきたしてしまうので、しっかりと考えてみてください。

③ 客観的に見た適性

知能検査、職業適性検査、クレペリンテスト、性格検査などの諸検査の結果を参考にして客観的に数値化された自分の適性を知るように努力してください。

(2) 就職情報の把握

志望を決定するにあたっては、種々の就職に関する情報を集めなければなりません。それらの情報を適切に判断した上で、最終的に志望を絞っていきます。次のような観点で就職情報を集めることが必要です。

① 求人側が期待する人物像

企業が求める人物像には、企業の規模・職種の違い、業種の違いなどによって多少の差はあるにしても、平均的には次のような人が「企業のほしがる人物」ということになるでしょう。

ア) 基本的な生活習慣が確立してコミュニケーションがとれる人

イ) テキパキと物事を処理でき、責任感のある人

ウ) ファイトがあり、バイタリティーに富んでいる人

エ) 誠実で勤勉、学業成績の良い人

オ) 常識があり礼儀正しい人

② 求人側が不適格と思う人物像

上記の反対の人が企業のほしくない人ということになりますが、さらにそれを列記すると次のようになります。

- ア) コミュニケーションのとれない人
- イ) 消極的で意欲のない人
- ウ) 服装・髪型がだらしない人
- エ) 礼儀作法の悪い人
- オ) 時間を守れない人
- カ) 素直でない人
- キ) 成績のよくない人
- ク) 欠席や遅刻の多い人

(3) 志望先の調査

就職先を選択するにあたっては、企業の経営状態が安定していて、将来性があり、自分の能力が十分に生かせるようなところが望ましいです。そのためには、いろいろな資料から希望する企業について調査する必要があります。その資料としては、求人票・会社案内パンフレット・会社ホームページなどが挙げられます。以下、調査する事項は次のようなものです。

- ① 会社名
- ② 所在地（通勤方法、所要時間）
- ③ 社の沿革・社風
- ④ その業界における位置・知名度
- ⑤ 事業内容
- ⑥ 資本金及び資本系列・経営状況
- ⑦ 従業員数
- ⑧ 就業条件（賃金、勤務時間、総休日数・休日の体系、残業の有無、有給休暇）
- ⑨ 社会保険（健康保険、厚生年金、失業保険、労災保険）
- ⑩ 昇進・転勤・離職状況
- ⑪ 労働組合の有無
- ⑫ 福利厚生（寮・社宅、レクリエーション施設、クラブ活動）
- ⑬ 本校卒業生の社内での活躍
- ⑭ 採用形態（正社員・契約社員・派遣社員等）

以上のように、細部まで調査することにより、企業に対するイメージを自分できちんと持つことができるようになります。進路指導室を十分活用してください。

(4) 情報収集の仕方

求人票・・・職業安定所の検印を受けて、各社から学校に届けられた正式の求人書類。

企業パンフレット・・・事業の特色や福利厚生施設等、写真やイラストでわかりやすくまとめている。

受験報告書・・・採用試験を受けた先輩たちの記録。面接、試験の内容がわかる。

先輩の意見・・・進路説明など、先輩から求人票などでわからない生の情報を得る。

その他の資料・・・企業要覧や会社四季報、ダイヤモンド紙、インターネットで調べる。

進路相談・・・担任や進路の先生からアドバイスを受ける。

*希望する会社等がある場合は、担任や進路の先生に早めに相談してみましょう。

1 1 就職の自己開拓について

(1) 縁故就職、家業自営について

学校に来た求人票によらずに、家族や親戚の人、アルバイト先の店長さん等の紹介で会社に入れるから学校の世話はいらないという人が毎年数名います。しかし、これが安易な口約束だけであったり、お互いの間に誤解があったりして、必ずしも決定を見ない例もあります。また、公共職業安定所を通した求人票がないために、雇用条件が確かでないといった問題点もあります。したがって、進路指導部としては、特に事情のない人には、できるだけ学校紹介による方法を勧めています。それでも、どうしても縁故によるという場合には以下の点に注意して下さい。

- ① 就職の内容について、担任、進路指導部、家庭と十分連絡を取りながら確実なものであることを確かめて話を進める。
- ② 学校紹介の場合と同様に学校からの推薦書が必要な場合は、会社から学校へ求人票を出してもらうように依頼する。 求人票が出ない場合には、会社から学校へ推薦書の発行を依頼してもらう。
- ③ 縁故就職と学校紹介のかけもち受験はできない。
- ④ 具体的な自己開拓による就職先が無いのに、安易に自己開拓を望まない。

*就職（自営・縁故・自己開拓）届を提出して下さい。（用紙は進路室にあります）